



京都切り絵歳時記

月刊

# あじえんだ

2008年

1月



みやこ 京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信

月刊あじえんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした  
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031 京都市伏見区  
深草池ノ内町13  
京エコロジーセンター2F  
活動支援室内  
TEL : 075-647-3535 FAX : 075-647-3536  
E-mail : ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通  
御池下ル柳八幡町65  
京都朝日ビル4F  
京都市総合企画局地球温暖化対策室内  
TEL : 075-211-9281 FAX : 075-211-9286



## 2008年スタート 京都議定書のさらに先へ 足元的一步と将来を見通す視線を

### ●京都議定書の第一約束期間（2008～2012年）がスタート

今年2008年は、京都議定書が定めた温室効果ガス排出削減の目標期間「第一約束期間」の最初の年です。地球温暖化防止に向けた取組として、この期間中に日本全体では1990年に比べて-6%、京都では2010年までに-10%の温室効果ガスの排出削減を達成するという目標が設定されています。

### ●2013年以降を視野に国際的な話し合いが始まっています

さらに、昨年12月にインドネシアのバリ島で開催されたCOP13（国連気候変動枠組条約第13回締約国会議）では、京都議定書「第一約束期間」の終了後、すなわち2013年以降の新たな枠組み（ポスト京都議定書）をどう構築するかの国際的な話し合いが始まりました。

### ●京のアジェンダ21フォーラムへの期待と重要性

世界で、日本で、そして京都で地球温暖化対策の一層の推進が求められる中、環境と共生する持続型社会への行動計画である「京のアジェンダ21」を推進する当フォーラムへの期待が高まっています。当フォーラムは、市民、事業者、環境保全活動団体、行政など幅広い主体で構成するパートナーシップ組織として、1998年の設立以来、2つの領域で大きな成果を上げてきました。そのひとつは「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」「省エネルギー」「京グリーン電力証書制度」などの新しい事業の創出と育成、もうひとつは「京都市地球温暖化対策条例」の制定への協力などの「政策実現と統合」です。

### ●政策実現と統合に向けてプロジェクトチームを設置

フォーラムがパートナーシップ組織として重要な役割を果たすことができる「政策実現と統合」のために、フォーラムでは今年度、「京都市地球温暖化対策政策提言プロジェクトチーム」を設置しました。

このプロジェクトチームは、京都市地球温暖化対策条例及び京都市地球温暖化対策計画の進捗状況等を踏まえて、京都市における市民、事業者、行政のパートナーシップによる地球温暖化対策のあり方について、特に政策・仕組みづくり等に焦点を当てて検討し、提言をまとめることを目的としています。

プロジェクトチームのコーディネーターは、当フォーラムの常任幹事であるとともに、京都市地球温暖化対策評価検討委員会の委員でもあります、田浦健朗氏です。

### ●長期的な視点とともに具体的な政策提案で成果を目指す

プロジェクトチームでは、フォーラムのこれまでの活動実績を踏まえ、最大限に活用するなどにより具体的な政策提案をとりまとめるとともに、同委員会とも連携を図りながら、その実現を目指します。また、政策提案の背景として中長期的な京都の未来像についても視野に入れた検討を行います。

プロジェクトチームでは、年度内に3回程度の有識者等を集めた研究会を開催して検討を深め、成果を取りまとめていきます。ご期待ください。



2007年12月バリ島で行われたCOP13本会議の様子  
(提供：西本裕美さん)

## Agenda Forum

1月の  
ミーティングと  
主催行事の予定

1月11日（金）	エコツーリズムWG運営会議
1月17日（木）	えこまつりWG運営会議
1月18日（金）	自然エネルギーWG運営会議
日時会場未定	2007（平成19）年度第5回幹事会・第4回常任幹事会合同会議



## 重要な家庭の地球温暖化対策の切り札となるか 「家庭の省エネ相談」を実施 「省エネ診断アドバイザー」が活躍

### ●増加傾向にある家庭からの温室効果ガス排出量

京都市が取りまとめた最新のデータ(2004年の値)では、温室効果ガス総排出量の96.0%を占める二酸化炭素について見ると、「民生・家庭部門」すなわち一般家庭から排出される量は、市全体の量の27.1%という大きな割合を占めています。しかも家庭からの二酸化炭素の排出量は、1990年には174万トンであったのが年々増加する傾向にあり、2004年には211万トンに達しています。

京都議定書誕生の地として、京都市では2010年までに1990年から10%の温室効果ガス排出量削減を目指していますが、一般家庭の状況を見ると、排出削減目標の達成は厳しいものといわざるを得ません。

### ●家庭におけるエネルギー消費の削減が重要

では、どのような方策で家庭の地球温暖化対策を推し進めることができるのでしょうか？

家庭における二酸化炭素の発生要因は、生活に要するエネルギー消費です。したがって、家庭からの二酸化炭素の排出削減には、日常生活でのエネルギーの使用を減らすことが必要です。

そこで、フォーラムでは、これを促す有効な方策のひとつとして「家庭の省エネ相談」に注目しています。

### ●それぞれの家庭に合った排出削減の行動を推奨

家庭の省エネ相談とは、「エコライフ診断記入シート」という調査票にエネルギー消費に関する家庭の行動の実態を記入していただき、「家庭の省エネ診断プログラム」を用いてその家庭のエコライフの実践の度合いを診断するとともに、「省エネ診断アドバイザー」という家庭の省エネルギーの専門家が、各家庭に合った具体

的な方策のアドバイスを行うというものです。

各家庭で省エネルギーの取組を強化していただくには、生活習慣のなかで、これまで意識していなかったエネルギーの使いすぎに目を向けてもらい、省エネルギー行動を実践することが必要です。そのために、個々の家庭の事情に応じてアドバイスできる「家庭の省エネ相談」を広く行っていくことが重要だと、フォーラムでは考えています。

### ●今年2月の脱温暖化行動キャンペーンでも「家庭の省エネ相談」を実施

今年2月、フォーラムでは昨年につき、脱温暖化行動キャンペーンで「家庭の省エネ相談」を実施します。今回は京都府地球温暖化防止活動推進センターと共同で、昨年度より開設箇所数を増やすとともに、内容も一層充実させた取組を行います。詳しくは、次号でお伝えする予定です。どうぞ、ご注目ください。

### 「エコライフ診断記入シート」の内容

#### ■家庭の行動のチェック項目

- ・照明やテレビなどは不要なときにはこまめに消す
- ・洗面の水を流しっぱなしにしない
- ・食器洗いの時、お湯の温度を低めにする
- ・風呂から出るときには湯船にふたをする
- ・衣類乾燥機を使わずに天日乾燥する
- ・煮炊きのときには鍋にふたをする
- ・詰め替え商品を選んで買う
- ・車に余計な荷物は積まない など20項目

#### ■その他の質問項目

- ・1か月の電気代・ガス代・灯油代・ガソリン代
- ・家族の人数

## 家庭の省エネ相談 192名の市民が参加 2007年12月8日(土)・9日(日) 京都環境フェスティバル2007にて

12月8日(土)・9日(日)に伏見区のパルスプラザで開催された「京都環境フェスティバル2007」において、脱温暖化行動キャンペーンの一環として、家庭の省エネ相談所を開設しました。

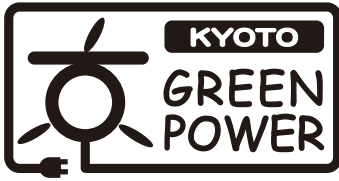
8日には91名、9日には101名、合計192名もの皆様に診断を受けていただきました。中には、省エネ診断アドバイザーのアドバイスを熱心にメモを取られる方もおら

れました。

省エネ相談を受けたことがきっかけとなり、より多くの市民の皆さんが省エネルギーを心がけたライフスタイルを実践するようになることが期待されます。

下写真、左から：ブース案内掲示。家庭の省エネ相談の様子。多くの参加者で賑わうブース全景。





みやこ  
**京グリーン電力証書制度第1号**  
**「京都・嵐山花灯路」 98万7千人が夜の嵐山を堪能**

●冬の観光振興策  
今年で3年目

京都市右京区と西京区にまたがる嵯峨・嵐山一帯を明かりで演出するイベント「京都・嵐山花灯路」が12月8日から17日まで開催されました。竹林などの自然景観と社寺などの伝統的な建造物が幻想的な明かりと陰影に浮かび上がる風情を、約98万7千人（主催者発表）が楽しみました。

●京グリーン電力証書制度の第1号

フォーラムの自然エネルギーワーキンググループで京都における自然エネルギーの普及・拡大の仕組みづくりの一環として検討を進めてきた、京都独自のグリーン電力制度「京グリーン電力証書制度」がスタートしました。その第1号が「京都・花灯路」です。今回の「嵐山花灯路」に続いて3月の「東山花灯路」でも消費電力の一部が証書購入を通じて市内の市民参加型太陽光発電施設「おひさま発電所」で発電した電力で賄われます。

●1乗車100円のシャトルバスも運行

嵐山花灯路を訪れる大勢の人々の移動手段として、嵐山天竜寺前～大覚寺の区間で、交通局と京都バスにより1乗車100円のシャトルバスが運行されました。

また、大覚寺～二尊院の区間にはジャンボタクシーによる無料のシャトル便が運行されました。

あわせてメインストリートの長辻通をはじめ関連道路は一般車輛の通行が規制され、徒歩と公共交通機関での来訪を誘導する施策が実施されました。

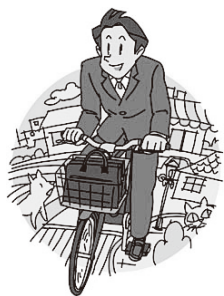


写真上：竹林の小径は足元が見えないほどの人出

写真右：明かりが並べられた散策コース

写真下左：1乗車100円のシャトルバス

写真下右：ジャンボタクシーによる無料のシャトル便



**事務局動静 12月 ～事務局スタッフの動きを報告します～**

- |             |  |        |                                     |
|-------------|--|--------|-------------------------------------|
| 7日（金）       | 脱温暖化行動キャンペーン京都ネットワーク会議   | 11日（火） | KES C 森チーム現地視察<br>歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会 |
| 8日（土）～9日（日） | 京都環境フェスティバル2007  | 13日（木） | 京都精華大学井上先生訪問                        |
| 10日（月）      | KES C 京都市立朱雀第四小学校訪問<br>KES C 交通チーム・風チームワークショップ<br>自然エネルギーWG 運営会議 | 15日（土） | 千代田区立九段中等教育学校関西探求合宿対応               |
|             |  | 19日（水） | 脱温暖化行動キャンペーン京都ネットワーク会議              |
|             |  | 21日（金） | KES C 京都市教育委員会ヒアリング                 |
|             |  | 25日（火） | KES 環境委員会                           |



## 【第7回】小山直美のドイツ報告

### ドイツの人々の暮らし ごみ減量と省エネルギー



2007年4月下旬から5月下旬までの1か月間、私がボランティアで関わっている日本熊森協会から、国際ロータリー第2680地区（兵庫県）のGSE（Group Study Exchange）プログラムで、ドイツ南西部シュトゥットガルト近郊に、環境研修に行かせていただきました。

今回は、ドイツの人々の環境に配慮した暮らしについてご紹介させていただきます。

#### ■使い捨て容器がない

滞在中の1か月間、殆ど、使い捨ての紙コップ、紙皿を見ませんでした。屋外に大人数でハイキングに行くようなときでも、人々は陶器やガラスの器を持って行きます。

また飲料容器には、リユース瓶（何度も洗って使用できる瓶）がよく使われていました。森の中にある売店でも、出てくるのはガラス瓶に入った飲料でした。何度もリユースされ、瓶に貼られたラベルが古くなっているものもありますが、そのような瓶も、また飲料を詰め、普通に売られます。しかし残念なことに、ドイツでも、一度しか使えない容器の割合が、ミネラルウォーター、ジュース・飲料水で増える傾向にあるそうです。私が訪問したEnsingerというミネラルウォーターの製造販売会社では、2004年には、使用する容器の割合が、一度しか使えないペットボトルが45%、リユース瓶が55%だったそうです。せっかくリユース瓶使用の習慣が根付いているドイツには、リユース瓶の使用を継続していただきたいです。

#### ■省エネルギーを徹底

ドイツでは、家庭でも会社でも省エネルギーが徹底されていました。何度か企業訪問をしましたが、お客さんが来ていても、昼間であれば多少暗くても電気を付けないことがしばしばありました。またどんなに裕福な家庭でも、日本のように煌々と明かりを付けることがなく、少し暗めですが、間接照明を上手く使って、おしゃれに過ごしておられました。レストランで昼間に電気を付けて食事していると店員さんがやって来て、「これだけ明るかったら電気は要らない」と言っ

て、電気を消して行くようなこともありました。

#### ■洗濯は週1回

3人、4人家族でも、「子や孫の代まで、ちゃんと水があるかどうか分からない」と言って、洗濯は週1回まとめてする、といった家庭が多くありました。

#### ■お土産はエコバッグで

企業やNGOの見学先では、殆どの場合、資料やお土産を、使い捨てではない布製のエコバッグに入れて下さいました。

もちろんドイツも完全ではなく、「ドイツ人は自他共に認める車好き」だそうで、ホストファミリーの方々も、好んで車に乗っておられました。またレストランで出される食事の量が多く、ドイツ人でも食べきれないことがよくありました。

しかし、総じてドイツでは日本に比べ、日常生活で普通の市民が環境に配慮した生活をしていると感じました。何人かのホストファミリーの方々には、「ドイツでは人口密度が高いから、資源を大切に持続可能な社会にしなければならない」と話しておられました。ドイツの人口密度は233人/平方キロです。これに対し、日本の人口密度は343人/平方キロで、ドイツよりも更に人口密度が高い日本は、そろそろ本気で社会を持続可能なものに変えていく仕組みづくりが必要だと思いました。  
(小山直美)

写真上：ドイツでは、ファーストフード店でも使い捨て容器を使わない（マクドナルド等の米国系企業をのぞく）。

写真下：訪問先の企業にて。日中であれば電気は付けません。ここでもリユース瓶に入った飲料が登場。



**事務局短信** 今年の冬休みは毎年の雪山行きを諦め、自宅の大掃除に徹することにしました。重曹とクエン酸で、すっきりさっぱりと30代の新年を迎えたいと思います。(竹村光世) / 新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。いよいよ京都議定書の第一約束期間が始まります。皆さんにとって、そして地球の全ての生きものにとって素晴らしい年になりますように。(小山直美) / 事務局通信『月刊あじえんだ』の制作を担当して1年経ちました。毎号ご覧くださり、ありがとうございます。見出しの工夫のほか、説明図や写真を以前よりも多く取り入れています。最近の紙面はいかがでしょうか。フォーラム内の動きを会員の皆様により興味深く的確に伝えられるよう、今後も紙面構成と取り上げる内容や切り口の工夫につとめたいと思います。2008年もよろしくお願いいたします。(長谷川吉典)